

展示 2. 胆道系 2 例

兵頭 春夫 鴻池 尚 浅井 出男
弘津 武人

(愛媛県立中央病院 放射線科)

芝 寿彦
(同 内科)

江里口健次郎
(同 外科)

河村 文夫
(徳島大学 放射線科)

胆摘後症候群としての管内結石摘出術の際確認した肝膿瘍 2 例について、カラー、ドット、ホトの同時記録および続いて撮影した γ -カメラグラムを各症例について比較し、その診断の客観性を検討し展示した。

各々の描記されたシンチグラムには、それぞれ特徴あるパターンを示すが、ホトシンチが一般に理解し易いと考えられた。また γ -カメラは短時間で正面、側面の描写が可能であり、従って立体像からの解析が可能である点、総合的には γ -カメラ像が最も診断に役立った。

一方膿瘍と癌との鑑別は、SOL の解析のみでは比較的困難であり、他の臨床所見を含む総合診断が必要である。

*

展示 3. Post bulbäre Duodenostenose を呈した膵頭部癌の 1 例

西村 早苗 西村 新吉 梶岐 尚生
大屋 俊男 立花 敬五

(鳥根県立中央病院 放射線科)

小林真佐夫 福山 訓生
(同 外科)

症例：57才 女子

主訴：悪心・嘔吐

家族歴：既往歴には、特記すべきものなし

現病歴：約半年前より、時々右側腹部鈍痛があった。1

カ月前より食思不振、悪心、嘔吐を来とし、胃部膨満感が強くなって来た。るいそうには気付いていない。

経過：初診時の胃 X 線検査では Postbulbäre Duodenostenose の所見を認めた。入院時に臍右上方の鶏卵大腫瘤を認め、上記の十二指腸第 2 部の狭窄と併わせて、まず胆道系の検索から始め、膵シンチグラムに至る一連

の検査を行ない、入院後、12日目に膵頭部癌の診断を得、膵頭十二指腸切除術を施行した。膵シンチグラムが、大いに診断の助けとなったので、展示発表の場をかりて症例を供覧した。

*

展示 4. 縦隔洞腫瘍と肺シンチグラム

梶岐 尚生 西村 新吉 西村 早苗
大屋 俊男 立花 敬五

(鳥根県立中央病院 放射線科)

小林真佐夫

(同 外科)

症例は15才の高校生(男)で、昭和45年7月検診異常なく昭和46年4月の学校検診にて右上肺野に腫瘤陰影を指摘され、次第に腫瘤陰影が増大するので、昭和46年7月本科を訪れた。初診時の症状としては軽度の咳嗽をみとめ右肩の鈍痛、上半身の前屈位で右胸部圧迫感を認めている以外には特記するものはなかった。

気管支造影は患者の協力を得られなかったので、胸部 X 線写真、断層写真および肺シンチグラムにて縦隔洞腫瘍と診断し手術をすすめ組織学的には、皮様囊腫であった症例を肺シンチグラム、X 線写真、摘出腫瘤写真を展示した。参考までに術後の経過も報告した。

*

11. Brain Scintigraphy ———とくに glioblastoma と meningioma の鑑別診断について———

松本 皓 中山 博雄 石光 宏
鈴木 健二 西本 詮

(岡山大学 脳神経外科)

脳腫瘍中、glioblastoma と meningioma はともに、脳血管写上で hypervascularity を呈し、脳 scintigram でも診断率の良いものであるが、予後は大きく異なるため両者の術前鑑別診断は最も問題となる。今回は、私共の教室で手術により組織像の確認された glioblastoma 35 例、meningioma 23 例について、術前、脳 scintigram がどの程度までこの両者を鑑別しえたかについて検討を加えた。その結果、この両者以外の組織像の腫瘍であっ